



釜石と見る未来

The next story

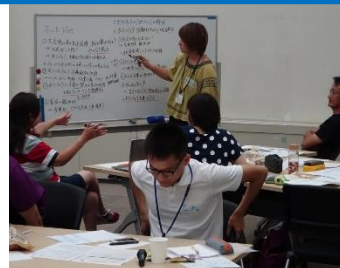
釜石ラグビー2019応援プロジェクト
首都大学東京ボランティアセンター

はじまり



首都大学東京
×
NPO法人スクラム釜石

第1回ワークショップ



ラグビーワールドカップとは？釜石とは？
講師のお話から学ぶとともに、
自分たちにできることを考えました。

2018/07/21

釜石鵜住居復興スタジアム オープニングDAY



2018/08/20

2018/08/18~

釜石について知るツアーも兼ねて現地へ。釜石で暮らす方々に震災当時のお話や
ラグビーワールドカップ釜石開催への想いを聞くことができました。
釜石鵜住居復興スタジアムオープニングDAYでは、
チケットもぎりや資料配布など様々な場所で活動をしました。
釜石の盛り上がりを実際に体感する機会となり、
ラグビーワールドカップ本番がさらに楽しみになりました。

第2回ワークショップ



61/10/6102

釜石鵜住居復興スタジアムオープニングDAYの
活動で私たちに何ができたのか。
東京にいる大学生だからこそ
できたことを考えました。

釜石ラグビー2019応援プロジェクト 活動の歩み

2019年秋、世界中の視線が日本に注がれたラグビーワールドカップ日本大会の熱気を覚えている方も多いでしょう。
その開催都市の1つであるラグビーの街「岩手県釜石市」は、東日本大震災で甚大な被害を受けました。
東京にいるわたしたちにも何かできることはないのか。首都大学東京はNPO法人スクラム釜石と提携し、
「ラグビーを通じた釜石の復興支援」をテーマに約1年半活動が続けてきました。

振り返りワークショップ



2019/12/15

約1年半の活動のまとめです。
自分の感情や想いの変化などについて
プロジェクトに関わった方々の声も取り入れつつ
多角的な視点から振り返りました。

おわり

ラグビーワールドカップ2019釜石



2019/09/23~

2019/09/23~

ついにラグビーワールドカップ本番の活動です。3日間、釜石に滞在しました。
初日はベニユートレーニングに参加し、当日の動きや会場の確認をしました。
2日目は、岩手県内の大学生に再度出会い、
釜石を巡るスタディツアーを実施しました。
そして3日目は、ラグビーワールドカップ本番！
たくさんのお客さんとハイファイブをしました。

PNC

パシフィックネーションズカップ



釜石鵜住居復興スタジアムで実施された
日本VSフィジー戦にボランティアとして
参加しました。

2019/07/27

ロールトレーニング& 釜石スタディツアー



2019/07/20~

ラグビーワールドカップ本番の役割となる
会場内観客サービスについて説明を受けました。
また、岩手県内を訪れるせっかくの機会ということで
県内の大学・専門学生といのちをつなぐ未来館や
釜石大観音など釜石をめぐる
スタディツアーも実施しました。

ラグビー体験会



2019/03/23

ラグビーの魅力を知るには、体験するのが一番！ということで、
ラグビーを体験してみたいという学生の声にこたえ、
ラグビー部による体験会が開催されました。
対面パスやタックル、ラインアウトの体験を
地域の方とも一緒に行いました。
楽しみながらラグビーの魅力を知る機会となりました。

ラグビー釜石アクション



2019/06/02

東京ドームにて、ラグビーワールドカップの
釜石開催や釜石市についてのPRを
来場者に向けて実施しました。

トークライブ



60/50/6102

「ラグビーとボランティアとリーダーシップ」をテーマに
多くの方が様々な形でラグビーワールドカップを
楽しみ、応援できるよう、ラグビーの魅力について
学ぶ場として開催しました。

わたしと、釜石と。

『ラグビーを通じた釜石の復興支援』をテーマに活動をしてきた約1年半。それは、様々な出会いと気づきを参加学生それぞれが得られた時間であったとともに「わたしにとっての釜石」を語れる人が増えていった時間でありました。プロジェクトがひと段落した今、参加学生はどんなことを思っているのか…7名の学生にインタビューを実施しました！

※所属・学年は2019年度のものです。

Question

- ①釜石ラグビー2019応援プロジェクトに参加したきっかけは？
- ②プロジェクトの中で一番印象に残っている出来事は？
- ③プロジェクトを通して『ラグビー』に対してのイメージは変化した？
- ④プロジェクトを通して『釜石』に対してのイメージは変化した？
- ⑤プロジェクトを通して『復興』に対してのイメージは変化した？
- ⑥プロジェクトがひと段落した今だからこそその想いややりたいことは？

※Answerの数字と連動しています



福田 理貴さん

健康福祉学部 理学療法学科 4年

A

- ①ボランティアセンターから声をかけていただきました。ラグビー部のコーチのつながりで幼稚園でのラグビー教室やラグビー関係のイベントのボランティアをしたことがありました。今回は、W杯に関わることができるということで参加を決めました。
- ②一番と言っているのですが2つあって…1つ目は釜石鶴住居復興スタジアムオープニングDAYです。トップリーグの試合も見っていますが、スタジアムがあんなに人で埋まるとは思っていませんでした。それも釜石の方々に埋め尽くされていて、大漁旗もかけられて…地域に密着したスポーツとして釜石にラグビーがあるのだと感じられた瞬間で印象的でした。2つ目はW杯当日。海外から来た方と一緒に写真を撮ることができたことです。「おもてなしの心をもち来場した方にサービスを」という想いをもっていました、サービスは一方的なイメージがあり、さらに海外の方からすると余計なお世話になることもあるかもしれないと声をかけづらかったのですが、実際に声をかけてみると一緒に写真を撮ろうと誘ってくれて…自分の気持ちが伝わり、さらにそれが相手のW杯の思い出の一部になれたかなと思えたので本当に良かったです。
- ③プロジェクト参加前はあくまでスポーツの一つとして、自分たちが勝つため、楽しむためにやっていたのですが、プロジェクトを通して、自分たちの試合を見に来る方、幼稚園の子どもたちなどラグビーを通して接する方々にただのスポーツを超えて、影響を与える力、責任があると改めて感じました。だからこそ、ラグビーにより真摯になる必要があると思いました。自分たちが中途半端にやるスポーツ、考えはそのまま相手に伝わると思うので…大学生活の一部を使ってラグビーに取り組んでいるという自信や誇りをさらにもって部活に取り組めるようになったと思います。
- ④建物的にも、心的にも復興は進んでいない、どんよりとした街に行くのかと最初は思っていました。ですが、実際に釜石に行って現地の方とお話をしたらとても明るく、オープニングDAYの会場も熱気がありました。建物も綺麗で、浜辺の整理も進んでいて…メディアを通じた情報と現地の情報がこれほど違うのかと思いました。初めて釜石を訪れたオープニングDAYを通してW杯当日のボランティアが楽しみになりました。行ってみないと分からないことがあるなと思いました。
- ⑤建物、土地、流通というような環境が整備されることが復興だと思っていました。ですが実際に釜石に訪れ、人が立ち上がることが復興を意味しているのかなと思いました。人が立ち上がるから建物ができて復興が進むのだという印象を受けました。正しいかは分かりませんが、自分の復興のイメージが明確になる機会となりました。
- ⑥一人のラグーマンとして、ラグビーに関わる枝葉を増やせるような活動がしたいと思っています。理学療法士としての関わりやラグビーの試合を知り合いと一緒に見に行くこともその一つです。次のW杯まで枝葉を枯らさないようにしたいです。他に興味があるのは、ラグビー以外のスポーツを盛り上げている方と交流を持ってスポーツとしての盛り上がりをつくっていければ、スポーツの力を知ってもらえる機会になるかなと思っています。



辰巳 紘奨さん

都市環境学部 分子応用化学コース 4年

A

- ①自分がラグビーをやっていたということが大きいです。W杯のボランティアもやってみたいと思っていましたが自分からは行動に移せず…ですがそんな中、ボランティアセンターからラグビー部に声がかかり、良い機会だと思い参加することに決めました。幼稚園でラグビー教室を行ったり、姉のボランティア経験の話を聞いていただったのでボランティアに対しての抵抗感はなかったです。
- ②フィジー対ウルグアイ戦、観客席で活動をしていた時の出来事が印象的でした。この試合では、ウルグアイが歴史的勝利をおさめました。その試合終了直後、ウルグアイサイドのサポーターをハイタッチでお見送りしていた時はとても楽しかったです。その時フィジーとウルグアイのサポーター同士が仲良くしている様子を見て、これが「ノーサイド」だなと思いました。目の前で起こったので印象的でした。
- ③昔からラグビーに関わっていたのでプロジェクトを通してのイメージの変化はないですね。高校生の時は自分がラグビーをやるだけでしたが、大学生の今はラグビー部のコーチのおかげで自分だけではなく、ラグビー教室に関わっている幼稚園の子どもたちなど、他の人にもラグビーを楽しんでもらうということもラグビーのプレイヤーとしてやるべきことだと感じています。プロジェクトを通して、楽しんでもらう対象の幅が大人まで広がったというイメージです。あとは、ラグビーの人气が出たのは嬉しいですね。
- ④2018年の7月に初めて釜石に訪れた時、思ったより設備があるなと感じました。もっと何もないと思っていて。復興が進んでいて少し安心しました。スーパーだったり宿だったり、あと家もすごく綺麗で新築で…そのような様子を見たので、新しさに違和感を抱くこともありましたが建物はあるなと思いました。
- ⑤難しいですね。第2回ワークショップの向山さんの話を聞いてから分らなくなっています。自分の中で、現地に行って活動をすれば現地の人のためになる、復興につながると思っていたのですが、向山さんの「W杯が釜石の全ての人から受け入れられているわけではない」という話を聞いて難しい問題だと思いました。ですがW杯当日の釜石の様子がテレビでも取り上げられていたり…そのテレビでも試合結果だけでなくスタジアムの歴史が語られたり、宝来館の女将さんが出てきたり、洞口さんのインタビューが出てきていたので、少しは復興につながったのではないかと思います。
- ⑥今までの活動にはないような新しい形でラグビーを通じた地域貢献を行っていきたいです。そのために大切な「自分たちから動く原動力」を得る機会にプロジェクトがなりました。今すぐ始めるのは難しいですが、子どもだけではなく、おじいちゃんおばあちゃんとも一緒に何かできそうですし…移動も大変な中で活動をして、その先にある達成感を得ることができたからこその変化があったと思っています。



丸山 友菜さん

健康福祉学部 看護学科 2年

A

- ①ラグビー部に所属していたからということはもちろんですが「4年に一度じゃない、一生に一度だ」という言葉は本当にその通りだと思って…生きている中でW杯にボランティアとして関わることができるというのはとても貴重な経験だと思いましたし、いろいろな方と触れ合ってみたいと思い参加することに決めました。
- ②オープニングDAYからW杯当日までの世界が一つになっていく感覚が印象に残っています。オープニングDAYの日は釜石が一つになった感覚が、そしてW杯当日には世界が一つになった感覚がありました。首都大生も一つで、釜石も一つで…それぞれが一つになって重なっていく感覚がありました。言葉は通じないはずの世界中の人々とハイファイブをするだけで、手と手の触れ合いから何かを感じられる、人の温かさを感じられたということが印象的でした。試合中は敵同士だったけれど、試合が終わったら肩を組んで仲間になっている様子も見ることができて良かったです。活動が終わってからもラグビー関連の放送があると、自分も関わっていたのだなと、テレビの放送も自分のことのように感じていました。本当にいろいろなものを一つにする力があるなと思いました。
- ③大学に入るまでラグビーを知らず、0から始まって…大学でラグビー部のマネージャーになって1を知って…プロジェクトの活動を通して100を知れた…かは分かりませんが、気持ちとしては1000を知ったくらいです。ルールもそうですが、それをサポートする側、マネージャーとしてだけではなく、ボランティアとしてのサポートを学んで…2年かけてラグビーを徐々に知っていくことができました。
- ④スタジアムを中心として復興が進んでいる街だと思っていますが、まだまだ復興は終わっていない気がしています。復興の定義は分かりませんが、スタジアムの周りはとても静かで、なにか物足りない…スタジアム完成の背景に様々な意見があったと思いますが、スタジアムができて、そこでW杯を開催できて良かったと私は思っています。W杯をスタートに、ここから世界に釜石のことを知ってほしいし、どんどん復興していってほしいと思います。
- ⑤ニュースでは段々と復興してきました！と新しくできた街並みがよく流れますが、実際に現地に行ってみると、あまり復興は進んでいないと思いました。海沿いだからかもしれませんが、まだまだ建物もないですし、昔のように隣同士が知り合いではないと思いますし…復興が終了したと言うのはまだ難しいかなというイメージがあります。
- ⑥W杯当日、フィジーやウルグアイの方々と触れ合って、もっといろいろな国に行っているいろいろな方と触れ合ってみたいという想いが強くなりました。いろいろな価値観があって、様々な暮らしがあるのだなと知ってみたいです。釜石の方と自分の暮らしもきっと違うでしょうし…その方の当たり前の暮らしが私とは違う…その方の当たり前をもっと知っていききたいです。



石川 陸矢さん

都市教養学部 物理学コース 3年

A

- ①説明会などを通してスクラム釜石の方々の話を聞くことができ、プロジェクトのイメージがはっきりとしました。参加のしやすさも感じましたし、貴重な機会になる、面白そうだと思いますので参加することに決めました。
- ②W杯当日です。会場外でお客さんに「写真撮りますか？」と声をかけたり、盛り上げたりという役割でしたが、いろいろな人とコミュニケーションを取り、W杯の盛り上がりの一翼を担えたかなと思うことができました。外国人の方に英語で話しかけたら反応してくれたり、親子に声をかけたら、それに応じて写真を撮ってくれたり…チケットを持っていないけれどスタジアムの盛り上がりを見たかったと会場の近くまで来た方ともお話できました。会場外でも様々な盛り上がりをつくれたかなと思ったので、とても嬉しかったです。
- ③プロジェクトに参加するまで関わりもなかったです。ですが、プロジェクトに参加するということで動画などでラグビーの勉強をしたり、ラグビー経験者の方とも関わったりする中で、つながりが強いという印象を受けました。スクラムを組んでぶつかり合う、チームメイトと協力しなければならないスポーツだからこそその絆の力というか…そのつながりの強さや絆がラグビーの特徴なのかなと思いました。
- ④プロジェクトに参加するまでは、釜石という地域は知らなかったです。釜石を訪れるようになって、ラグビー好きな人が多いという印象を受けました。また、海に面しているからだと思いますが、釜石で食べた魚介類が本当においしくて、とても印象に残っています。
- ⑤言葉としては昔から知っていましたし、災害が起きた時にがれきの撤去をボランティアがしていること、震災から時間が経っても復興支援のために東北に通っている方がいることも知っています。これが復興のイメージでした。プロジェクトに参加して、改めて復興について考えてみましたが正直よく分からないというのが結論です。ですが、復興について考える中で復興支援の継続性の難しさを感じました。期限があって、区切りがあると、そこまで何かやろうと思えるけれど、復興というのは、期限や区切りがあるというわけではない気がして…そうなる、続けていくこと自体が難しいのではないかと思います。
- ⑥知り合いを連れて釜石に行ってみたいと思いました。いろいろと考えてくれそうな知り合いたちといのちをつなぐ未来館などに行ってみたいです。電車で行くのももちろん良いですが、車で行ってみたいです。あとは自分の専攻分野に関わる量子力学について地元の漁師さんとお話のできたので量子力学の勉強もしたいと思いました。



横山 正真さん

都市環境学部 分子応用化学コース 4年

A

- ①ボランティアセンターからW杯のボランティア、釜石の復興支援に関するプロジェクトのお誘いをいただいたので、参加しました。ラグビー部からは約30名の部員が参加しました。
- ②W杯当日、試合が終わって最後にお客さんとハイファイブをしたことがとても楽しかったです。活動自体は立っている時間が長く身体的につらいと感じることもありましたが、お客さんが楽しんで帰っている姿を見送った時間は楽しかったです。あと印象に残っていることは復興に関してです。2018年7月に歩いた大船渡の街並みが綺麗でごちゃごちゃしておらず、新しいという印象を受けていました。その新しさの理由が街が全て流され、ガレキなどを全て取り除いて作ったから…ということを知り、上手く言えないですが衝撃的でした。プロジェクトを通して、W杯、オープニングDAY、ワークショップなど、様々な活動を経験しましたが、その経験の中でボランティアはなんだか楽しいなと感じました。僕はラグビーをやっているの、ラグビーを通してこれからもボランティア活動をしていきたいと思いました。
- ③釜石でW杯が開催されたということもありますが、ラグビーのポテンシャルを感じました。W杯が盛り上がり、普段ラグビーを見ない方がラグビーだからこそその良さを感じてくれたということもありますし、ラグビーが好きなが多い釜石だったからこそラグビーというスポーツを通しての盛り上がりも大きく、ラグビーの力を感じた時間となりました。
- ④地名はもちろん、新日鉄釜石の昔の話も歴史についてもテレビで見て知っていました。2018年7月、初めて釜石を訪れて、海がとても綺麗で印象的でした。だからこそ、その景色を見て、3.11の時に津波が来て街が流されたという事実は自分の中で衝撃的なことでした。実際に釜石を訪れて感じたことなので、行ってみないと分からないことがあるなと思いました。
- ⑤釜石に行ってみての印象は街が綺麗だということでした。ガレキばかりの様子からは戻っていますが、小学校に入った子が中学校を卒業するくらい、9年程経過しているということを考えると、建物が建ってきているという段階で止まっていることは悲しいですね。建物が建ったとしても文化的なところはまだ戻ってきていないのかなと思いますし、震災を機に他県に移り住む人もいますので、3.11以前の街に戻ることはないのかなと思います。復興が進んでいるとはいえ、中身の部分がまだまだ進んでいないと思いました。
- ⑥今後もラグビーを通してボランティアをしていきたいです。幼稚園や小学校のラグビー教室もそうですし、このような活動を通してさらにラグビーを広めていきたいです。あとは、釜石にもう一回行きたいですね。車を運転できるのでおいしいものを食べたり、まだ見ていないところに行ってみたいです。



阿部 早織さん

理学部 生命科学科 2年

A

- ①東京2020オリンピック・パラリンピックのボランティアを検討していた中で、何日間か関わることができるスポーツボランティアはないか探していました。学校から釜石へのバスも出ますし、同じ首都大生がメンバーということもあって、気軽に参加できると思い参加しました。
- ②W杯当日です。はじめましての方が多かったけれど、同年代の方も多く、ラグビーを知らなくても一日一緒に活動するだけでこんなに仲良くなれるのかと…スポーツの力はすごい、本当に楽しかった！と思っていました。ですが、ボランティアから少し経って思い返してみると活動した場所は被災地だったのだなと思いました。活動した場所がスタジアムの入口付近だったのですが「あなたも逃げて」という慰霊碑の位置を聞かれることが何度かありました。ボランティア開始前にスタジアム内を見学した際に私もその慰霊碑を見て、「逃げて」と訴えかける言葉にインパクトを感じていました。その慰霊碑を見に来る方もいるのだなと思いましたし、遺影を持ってきている方もいて…やはり震災があった場所なのだなと思いました。
- ③日本が活躍したということもあり、W杯の試合は見ていました。ですが、見るだけではなく実際にやってみなければルールは分からないと思うのでラグビーについて詳しくなったとは言えませんが、普段はテニスしか見ない、やらないので、ラグビーに関わることで視野が広がったと思います。また、いろいろなスポーツと関わるのは良いなと思いました。
- ④小学生の頃、原発事故が起こる直前に福島に行っていたこともあり、被災地のイメージは二次被害もあった福島でした。ですが実際に釜石を訪れてみると、やはり釜石も被災地なのかなという印象を受けました。復興は進んでいるとは思いましたが、前の生活には戻れていないのではないかと感じましたし、建物なども整理されている、ごちゃごちゃしていないという印象でした。
- ⑤被災した方の生の声を聞かないと実際の経験は分からないと思いました。映像や記事などは以前も見えていましたが、年齢も近かったいのちをつなぐ未来館の方のお話を実際に聞いてみると、自分の今の生活や意識と何か違いがあると感じて、もっと自分のことを見つめ直していかなくてはと後悔してしまいました。
- ⑥1年生の頃はいろいろなことをやろう！といういろいろと申し込むというような大胆さがあったのですが、2年生になり、いろいろなことをやりたいけれど、1つのことに集中しなくてはならないということも増えてしまいました。勉強も部活も忙しく、周りの状況は変わるけれど自分のいる環境は変わり映えしないと思っています。だからこそもっと大胆に動きたい！という想いはあります。釜石に行ったことやボランティアの経験を活かす場が何かあればと。もどかしい想いもあります。



渋谷 侑亮さん

都市教養学部 経営学系 3年

A

- ①ラグビー部に声がかかり参加しました。正直、始まる前は場所としても離れている釜石での活動ということやリーグ戦期間中ということもあり、あまり乗り気ではなかったのですが、参加してよかったと思っています。
- ②2つあって…1つ目はいのちをつなぐ未来館の方のお話です。今までテレビで震災の経験を話す方の姿を見たことはありましたが、内なる想いまで伝わってこないという印象でした。ですが、未来館の方は来場者に何回も自分の経験を話していると思うのですが、それでも僕らに話す時に涙ぐんでいて…そうなるほどつらい経験を思い出してまで話してくれているというのが、表現できないですけど、沁みました。話を聞いた後、宿に帰って震災に関わる絵本を見ましたが、話を聞いてイメージをしていた情景のままだが描かれていて…リアルな話を聞いたからこそ色々考えることができました。2つ目はW杯試合終了後、お客さんをハイファイブで見送っていた時に現地の方が笑顔で「ありがとう」と声をかけてくれた時のことです。その方は笑顔だったのですが、僕はその目になぜか悲しさを感じて…普段はそのような表情に気付くことはないのですが、その時は自然とを感じるものがありました。なぜ悲しんでいるのかは分からなかったですが、とても印象に残っています。
- ③日本でラグビーW杯が開催されてラグビーの人气がすごく出て、大学の試合でさえ10分でチケットが完売したりと、影響がすごくあって…僕は大学の試合もたくさん見に行きたいので、嬉しいのですが、残念さもありますね。あとは、トークライブ終了後にゲストの富岡鉄平さんとお話できたことでラグビー部でも新しいことを話し合うきっかけにもなりました。イメージの変化ではないですが、意識が変わるきっかけになったと思います。
- ④震災関連のニュースで見たことがあったけでした。ですが、実際に行ってみると、震災後そのままになっているような場所があったり、真っ暗な道があったり…鉄骨がむき出しのままの建物も見て、想定していたより復興は進んでいないのかなと感じました。
- ⑤東日本大震災の後にも豪雨災害や台風など自然災害はあったと思うのですが、あまり印象には残っていないです。だからこそ、実際に行かないと分からないことがあると思います。自分が思っているよりも復興というものはシビアと言うか…難しいのかなと思いました。
- ⑥プロジェクトを通して感じた想いになりますが、人と人は支え合って生きているということを肌で実感できた経験になりました。自然には抗えない、そういう時だからこそお互いが支え合うことが大切なのかなと思いました。復興などに興味はありますが、自分の経験も重なって、命は懸けられないと思ってしまいます。日本は災害が多いので日本から出たいなと思うことも結構ありますね。

うのすまい・トモス

鵜の郷交流館やいのちをつなぐ未来館など、複数の施設が集まるエリア。食事をするもお土産をかうことも東日本大震災の記憶や教訓を学ぶこともできる場所です。釜石鵜住居復興スタジアムにも歩いて行けますよ！



釜石鵜住居復興スタジアム

復興のシンボルとして震災で被害を受けた旧鵜住居小学校と釜石東中学校の跡地に建設されたスタジアムです。スタジアムは海と森に囲まれ、陽の光が芝に反射しきらきらと輝いています。



いのちをつなぐ未来館

震災の出来事や教訓とすべきことを伝えるとともに、災害から未来の命を守るための防災学習を推進する施設。インタビュー回答者の多くが「ぜひ行ってほしい」と答えていました。テレビを通してではない現地の方の生の声を聞くことができる施設だからこそ、ありのまが伝わってきます。展示されたお道具箱や黒板は、あの日のつらく、厳しい状況を物語っていました。何時間でもいてじっくりと考えたい、何度でも行って話を聞きたいと思える場所です。



釜石

自然も、食も、歴史も 魅力たっぷりの街

インタビュー番外編！わたしたちが見つけた釜石のお気に入りを紹介



新鮮な海産物

海が近いからこそその魅力。市場では低価格でおいしく新鮮な海産物をゲットできます。お料理好きな方は市場を見て回るだけでもうきうきできそうです。釜石でおいすぎる海産物を食べてしまうと他のものは食べられなくなってしまうとの噂です。釜石に行った際は「食」もお忘れなく！

釜石の人

釜石に滞在したのは数日間でしたが、釜石の人たちの優しさに触れることができました。また、ラグビーの街と呼ばれる釜石だからこそラグビーに思い入れのある人が多いという印象を受けたプロジェクト参加者も多かったです。

編集後記

プロジェクトを通して釜石が見ず知らずの場所ではない。会いたい人がいる、また行きたいと思う場所になりました。また必ず会いに行きます。

作成：石川陸矢（物理学コース3年）、神保彩乃（経営学系4年）

自然に囲まれた街

海も山も空気も綺麗な釜石！自然に囲まれた暮らしは高いビルに囲まれて暮らす人にとっては新鮮に感じられるかもしれません。映える写真が撮れること間違いなしです！

